

中小河川における局地的豪雨対策WG（第2回）
議事要旨

月日：平成20年10月28日

時間：13:30～15:30

場所：中央合同庁舎3号館1F
国交省河川局A会議室

「・」印は委員からの意見等

1. 中小河川における局地的豪雨に伴う河川管理上の課題に対する対応策について
 - ・中小河川の維持管理について、直轄の地方整備局から都道府県、市町村への技術的アドバイスを行うような枠組みが必要。
 - ・維持管理レベルについて、どういう体制で、どういう手順で、どう確保していくのかが大事。
 - ・新しいレーダ監視網により得られるデータも使い、気象予測や洪水予報の高度化について、気象庁も連携・協力しながら進めていきたい。
 - ・岡崎市では窪地にお住まいの方が亡くなっており、洪水氾濫などで本当に危険な場所を如何に見つけて、そこにお住まいの方には逃げてもらう仕組みをつくる必要がある。
 - ・防災体制を河川水位からの対応から、上流の降雨での対応が可能か検討。
 - ・河川管理者と下水道部局、消防、警察等の組織連携が重要。
 - ・局地的豪雨は、今の科学で予測することが難しいということをきちんと伝えるべき。
 - ・ハザードマップの配布や職員の研修会など、継続的な取り組みでなければならない。
 - ・わかりやすい情報提供のあり方を検討すべき。
 - ・防災情報をデジタルTVなどで常時提供できると良い。

2. 骨子（案）について
 - ・概念だけでなく、具体的な対応を出来るだけ加筆してほしい。
 - ・災害情報の出し方が大事であることも盛り込んでほしい。